

立山山行 9月4日(日)～5日(月)

参加者：酒井、本間、副島、吉田、山城、綿貫、綾部、佐藤(記) 8名

9月4日(日)朝、あずさ3号に乗り11:01信濃大町で集合、扇沢経由で黒部ダム12:46着、ここで綿貫、綾部の両氏は天候回復が望めないと言う事で引き返すことになった。

黒部湖駅から黒部平まではケーブルカー、そして大観峰まではロープウェイに乗り、さらにトロリーバスで室堂まで移動した。そこはもう2400mの世界だ。14:25着。

ここで、称名の滝から登って大日小屋に宿泊した山城氏と合流し、一ノ越山荘へ向かう。雨の中15:00に出発、50分程で山荘に着いた

手続きを済ませて、雨具など濡れたものを乾燥室にて乾かす。台風12号の動きが遅く、雨が止まずキャンセルも多かったようで、山荘は他に数組いるだけであった。その分ゆったりと過ごすことが出来た。

9月5日(月)雨の上りが遅い。

五色ヶ原への行程は無理という事になり

五色ヶ原山荘へキャンセルの電話を入れた。酒井さんは予定した室堂から帰ることになり、7:30出発した。我々5人は小屋番から黒部ダムへ直接下山す



黒部ダム駅にて



一ノ越山荘より雄山を望む

るコースは止めた方がいいとの忠告を受けたが



注意して下りようと言う事で8:05に出発した。小雨が降り続いたが山道はしっかりしており、ガスもなく順調に歩けた。東一ノ越標識を左手に折れ、高度を下げて、2100m地点で休憩、10:45

11:45黒部平分岐、ロッジくろよん方面へ。樹林も針葉樹の高木、

ブナの高木帯となり素晴らしい景観の中を歩いた。

12:30ロッジくろよん到着。

つり橋を渡ると間もなく13:00黒四ダムに着いた。14:05ダムから扇沢へ、15:00大町温泉郷、1時間ほど薬師の湯に浸かり、信濃大町16:30着。17:05発のスーパーあずさに乗り帰った。台風の動きが遅く五色ヶ原に行くことが出来なかったこと、富山支部との交流登山が諸事情により中止になったことなど、同行の皆さんには残念な結果となってしまい心残りです。またの機会に期待したいと思います。

酒井さんは黒四ダムで遊覧船に乗り、五色ヶ原・赤牛岳など船上より眺望を楽しんだという事です。

安達太良山紅葉山行 10月25日(火)～26日(水)

参加者：副島(リーダー)、佐藤、綿貫、山城、綾部、吉田、本間(記) 7名

25日、各自東京駅から郡山乗り換えで二本松駅に10:30到着。ホームの菊人形が東北にきた実感を味あわせてくれた。バスで岳温泉へ、終点からは予約の大型タクシーで今日の登山口の岳温泉スキー場まで運んでもらった。11:30到着。紅葉見物の観光客でゴンドラは忙しく動いていた。建物の脇のテーブルで軽い食事をとり12:17溪流遊歩道を明るく開けた溪流沿いに歩く。林道に出たところで紅

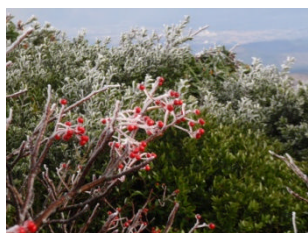
葉を見ながら昼食をとった。小雨が降ってきたので13:05には合羽を着て林道をくろがね小屋目指して歩く。14:55到着。この辺りは紅葉はすでに終わっており、前線が近づいていたので泊まり客は我々のほか一名のみだった。濡れたものを乾かし温泉に入る。本来は窓から紅葉が見えるはずであったが笹の葉だけが元気に青々していた。17:30カレーライスの夕食。自慢のカレーだけあって美味かつ

た。

9:30 消灯、部屋は比較的暖かいが、外は吹き荒れる風の音が絶え間なくしていた。

26日、5:00起床。前線の影響で風は強い。5:30朝食を食べて天気の様子を見ながら

ゆっくり出発の準備をした。この様子では尾根歩きは危険だろうが天気は回復の方向にあるようだ。7:00ちょうどにくろがね小屋を出発した。雨はなかったがガスと立ち止まると寒さを感じる。昨夜の寒さで霧氷が広がり、ナナカマドの赤い実に見事に調和していた。安達太良山山頂手前の尾根に出るとすごい風でしっかり足を踏ん張っていないと飛ばされそうになる。一寸した岩稜の上が山頂で風の陰になっている側から登る。8:35狭い山頂で風をよけながら記念撮影をして同じ道を慎重に下りた。風が強いので鉄山から沼尻に行く予定を変更して薬師岳経由で昨日の岳温泉に戻ることにした。一



寸尾根から外れれば嘘のように風はなくなる。時々ガスが消えて霧氷の彼方につながる福島山がきれいだった。10:30薬師岳で小休止。風を避けて腰をおろし食事をした。ここまで下がるとロープウェイで上がってきた観光客も多い。11:45ゲレンデを歩いてスキー場入口に無事着いた。程なく連絡したタクシーに乗り、岳温泉に戻り、バスまで近くの温泉に入った。熱い風呂でじっとして我慢。熱いのがこの温泉の特徴だと書かれては水で薄めることもでき

ず、ゆっくり入れる温泉ではなかった。表に出ると50kg以上あるかぼちゃに小学生が30人程グルー



プに分かれて商店街のカボチャというカボチャにハロウィンのペイントをしていた。元気を出そう東日本の支援活動なのだそう。我々も地元にも少しでも支援しなければと食堂で

「味噌かつ丼」他を食べた。

バスは直接郡山まで行ってくれて、それぞれの列車で東京に帰った。紅葉は麓に下りていたが白い霧氷の景色が印象的であった。

寄稿 佐藤允信

北アルプス縦走 (9月25日~29日) 佐藤・山城

9月25日(日)夜行バスで上高地へ、翌26日(月)6時着。6:30出発、山研を見学して明神へ。徳本峠(2,130m)10:12着、(30分前に最後の水場の標識の沢で4リットル給水)、徳本峠小屋の主人と情報交換する。山道に面した部分は昔の面影を残し、奥の小屋を新築したそう。テント場は20張位OKとの事。小屋横のナナカマドの大木は見事で沢山赤い実をつけていた。中村新道は小屋の後方から入る。樹林の続くダラダラした長い行程を歩く。三角点11:00、槍見台(2,365m)



13:16、大滝山(2,614m)三角点16:34、そばの大滝小屋はすでに閉まっており、その前にテントを張った。

27日(火)6:00発、7:45蝶ヶ岳、13:00常念岳(水補給する)。横通岳と東大天井のコル16:

20着、ビバークする。逆コースなので常念岳の登りはきつかった。穂高~槍ヶ岳のパノラマはすばらしい。

28日(水)6:00発、大天井小屋7:38、大天

井ヒュッテ8:22着、喜作新道歩いてビックリ平9:00着、ヒュッテ西岳11:00着、梯子が連続するので、重いザックがこたえる。東鎌尾根に入ると細かいアップダウンが多くなり梯子も当然多くなり疲れた。槍ヶ岳山荘前で鎌尾根完歩15:30。槍沢キャンプ場までさらに歩き

18:30着、ヘッドランプも使用した。

29日(木)6:00出発、横尾8:15、徳沢9:50着、徳沢のテント場は芝生を敷いたように整備が行き届いていた。明神10:50着、上高地11:50着。12時発のバスに乗り、新島々で電車に乗

り換え松本へ。14:49発のあずさに乗って帰途に
ついた。

4日間とも快晴で眺望を満喫でき幸運でした。し

かし、このような縦走は私のような老体には限界に
近いものでありました。

寄稿 山城政安 自宅から伊豆石廊崎灯台まで線で繋ぐ旅に参加して 佐藤・山城

平成23年8月10日午前7時30分、今、私達山
爺2人は石廊崎灯台の石室神社で長かった山行の無
事に感謝し柏手を打ち、神仙に報告しています。目
の前の太平洋は波穏やかに紺碧の空、荒磯先端では
釣り人2人が黒鯛でも狙っているのか夢中の様子だ。
1時間前に歩いていた、平民ヶ岳方向を振り返れば、
低騒音で回っていた風力発電風車も止まっている。
穏やかだ、歩き終えた満足と感動で最高に幸せ。

なぜ、今回の企画が始まっ
たのか。平成22年正月に山
仲間3人で、西丹沢→大杉山
→畦ヶ丸→ミツバ岳の2泊3
日の山旅で佐藤先輩から、目
の前の不老山から伊豆半島縦
断をし、太平洋まで行きたい、
自宅から伊豆まで線で繋げたい、との夢を聞きすぐ
賛同する。早速、日帰り山行などで歩いている点と
線をチェック、＜奥武蔵の山＞飯能—正丸峠—有間
山、＜奥多摩＞川苔山—雲取山—奈良倉山—西原峠
—権現山—扇山、＜道志山塊＞倉岳山—朝日山—加
入道山、＜丹沢山塊＞畦ヶ丸—権現山—ミツバ岳、
繋がりました。歩く人を募集するも参加者なしで、
結局、山爺2人旅の始まり。

1回目 平成22年5月13日～15日2泊3日、ス
タートは山北駅—洒水の滝—矢倉岳—金時山—三国
山—熱海駅。＊箱根から十国峠までは車道歩き。

2回目 平成22年11月26日27日1泊2日、蘇
我駅から不老山—大野山—山北駅＊どうしても線で
繋げるには、不老～大野の間を線で結ぶことに、こ
だわったため。

3回目 平成23年2月7日8日1泊2日、スタ
ートは熱海駅から玄岳—蘆山峠—修善寺駅。＊玄岳下
山口で自動車専用道路に降りる、仕方なく車道を歩
く、道路管理者に注意を受け、インターチェンジか
ら一般道路にでる。

4回目 平成23年3月3日～5日2泊3日、修善
寺駅から金冠山—達磨山—伽藍山—猫越岳—三蓋山
—天城峠。＊伊豆山稜歩道は、まさに富士山、西伊
豆の展望は素晴らしいの一言、歩くスカイラインそ
のものです。感動です。

5回目 平成23年8月6日～10日4泊5日、い

よいよ今回で最後にしたいものと2人とも張切り、
修善寺駅からバスで天城ゆうゆうの森で下車、本来
であれば、この最終回は、4月までには終わってい
た筈なのに、この大震災の不安定な状況では仕方な
い。

1日目：8月6日、スタート11時、前回の滑沢峠
に一気に登る、今回の最大の難関、猿山へ歩を進め
るも、途中赤いペイントに導かれ、いつの間にか三
蓋山へ、早々と迷い道するも、磁石と地図が
合わず再チェック、目印テープまで戻り、再発
進。幾つもの尾根を越えて午後3時30分よう
やく猿山到着、周りはすっかりガスがかかり、
これから進む尾根が見つからない、仕方なく
今日の寝床は猿山ときめる。

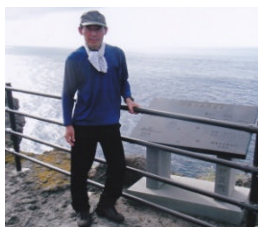
2日目：8月7日、朝5時スタート、進む
べき尾根を調べるがガスでよく見えない、とにかく
磁石で南へ、南へと南下、目印テープに沿って、標
高805mの山頂に到着、これでひと安心と思いき
や、この先まったく目印なし、約300m位進んだ
ところで、どうも尾根違いでないかと気づく、先ほ
どの805mまで登り返し、ガスが晴れた猿山を見
て驚き、まったく別尾根を下っていたのだ。時間は
すでに8時過ぎ仕方ない、腹を決め登山道に頼らず、
麓の林道へ降りることとする。道なき岩ガレ山、棘
ザサの藪こぎ、けもの道を夢中でようやく9時過ぎ
標高500mの萩の入林道へ出る。林道を上り計画
の諸坪峠標高730mまで歩く、すでに時間10時
30分、そこから先は長九郎林道をひたすら歩く、途
中湧水を見つけて補給する。午後3時30分八瀬峠着、
すっかり体力はメロメロだが、どうしても長九郎山
へ登ろうと、老体鞭打ち山頂へ、4時30分着、素晴
らしい展望台があり、早速登ってみる。高さ9m展
望スペース約10平米の広さ、南伊豆一望最高の見
晴らし、今日はここを寝床と決め、テントを張るの
にすぐさま賛成。残り少
ない夕日にザックや衣類
を干す。おやすみ。

3日目：8月8日、ス
タート5時八瀬峠から大
沢温泉まで、途中崩壊地
が2ヶ所あり通行止めの



登山道を通り午前8時温泉地へ、そこから車道を娑婆羅峠まで大汗をかきながら歩く、すでに時間は正午車道から尾根道への登山ルートが見つからず、聞く人もいない大変なところだ。地図に従い加増野經由林道を歩き、馬夫石山を目指す。山に入り棘ザサ藪こぎを1時間30分、ようやく午後5時馬夫石山山頂到着、体力も限界、いち早く寝ることとなる。

4日目：8月9日、今日は家に帰る予定、スタートは張切って4時30分、ヘッドライトをつけテントより左へ行き、右へ尾根を下山、6時水場に出る。これで安心、後は林道、車道を歩いて、鼻歌交じりの爽やかさ、ようやく7時ごろ里村に出る、田の水の見回りのご婦人に道を尋ね驚く、なんと昨日歩いた加増野村ではないか。どうも昨夜、狐の棲処にテントを張ったらしく、なんとなんと2人ともガックリ、また疲れが戻ってしまふ。もう獣達の山を離れコンクリートの道を歩くこと決め、県道15号、国道414、136号下田駅經由下賀茂まで、その間、家の愛妻に追加もう一日の許しを受け、手足を伸ばし道の駅下賀茂温泉にて足湯でリラックス、すでに午後4時コンビニで食糧調達、南伊豆の桃源郷の里山、走



雲峡に今宵のテントホテルスペースを偶然キャッチ、一生懸命に歩くことに對し山の神は安らぎを下さる、感謝感謝、ビールが旨い。

5日目：8月10日、5時30分 心残りだがテントホテルを離れる。一路石廊崎海岸へ、途中海風を肌で感じながら、限りなく標高0mの太平洋へ、午前6時30分石廊崎八幡神社前の海岸で、待望の太平洋の海水に手を付け口に含む、間違いなく塩水だ、今までの疲れなどまったく感じず石廊



崎先端の灯台まで約2km、満足満足。灯台で2時間の時間を過ごす。東京からの距離約300kmの山道・車道歩きを2人で振り返り、感動感動です。帰路10時15分のバスに乗車、下田、熱海、東京そして我が家着午後3時30分、玄関を開け、山靴を脱ぎ漸く是で今回の山行が終わりです。健康とテント入りザックを背負える老体に万歳。（平成23年8月15日記）

2011年 忘年山行「仏果山登山と宮ヶ瀬クリスマスイルミネーション観賞」12月14日(火)開催

今年最後の締めくくりは丹沢の東端にあつて、標高747m、山頂からの展望は、遠くに筑波山、丹沢の山並み、ランドマークタワーやベイブリッジ、新宿副都心のビル群など360度のパノラマが楽しめます。10万個のイルミネーションも楽しみです。万障お繰り合わせのうえご参加ください。

世話役：綾部（090-4958-1575）

期 日：12月14日(火)

集 合：小田急線「本厚木駅」中央改札口前 9時20分集合

行 程：本厚木駅 9:40 (バス) 坂尻 10:10 = (1:05) = 半原越 = (1:20) = 仏果山 = (0:55) = 仏果山登山口バス停 15:24 (バス) 宮ヶ瀬 15:50

イルミネーション点灯 17:00 本厚木駅に移動し懇親会

参考

イルミネーション 昨年11月27日～12月26日

仏果山登山口バス(宮ヶ瀬行) 14:24 15:24 16:24

宮ヶ瀬発 本厚木駅行バス 17:50 18:50 (平日なし) 19:50 (最終)

編集後記

- ・ 今年もあと1ヵ月余りとなりました。3.11 東日本大震災・原発事故には恐怖を感じました。それにしても台風、豪雨、等自然災害の多発した厳しい年となりました。来年は復興に向けて力強く進むことを願っています。皆さんの健康と安全な山行を祈っています。
- ・ 安達太良山紅葉山行は、強烈な北風で予定コースはいけませんでした。霧水の輝きと紅葉を楽しむことが出来ました。そして東北支援の気持ちを届けることが出来ました。
- ・ 例会は11月15日、12月20日、1月17日(いずれも第3火曜) JAC 会議室で午後6時30分より行います。